

事 務 連 絡
平成17年6月22日

関係者各位

厚生労働省健康局
疾病対策課エイズ調査係

平成16年エイズ発生動向年報について

エイズ対策につきましては日頃より御協力いただき、御礼申し上げます。

さて、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条の規定に基づく法定報告、「後天性免疫不全症候群（HIV感染症を含む）発生届けに係る病状に変化を生じた事項に関する報告について」（平成11年3月19日付健医疾発第30号 エイズ疾病対策課長通知）に基づく任意報告等について、標記報告書を取りまとめましたので送付いたします。

2004(平成 16)年エイズ発生動向年報
(2004(平成 16)年 1 月 1 日～12 月 31 日)

平成 17 年 4 月 25 日

厚生労働省エイズ動向委員会

目次

2004(平成 16)年エイズ発生動向 ー概要ー

エイズ発生動向調査の概要

1.エイズ発生動向調査(サーベイランス)報告の流れ	1
2.サーベイランスのためのHIV感染症/AIDS診断基準	2
3.集計対象と集計方法	4
4.集計結果を見る上での注意事項	4
5.現行の報告システムの課題について	5

発生動向の分析結果

1.2004(平成 16)年報告例の主な内訳	7
2.2004(平成 16)年 12 月 31 日までの累積報告例の内訳	7
3.HIV 感染者及び AIDS 患者の動向	8
4.都道府県別の報告件数	15
5.AIDS 報告における指標疾患の分布	15
6.病変死亡の動向	16
7.報告年と診断年の比較	16
8.まとめ	16

図 1	2004(平成 16)年に報告された HIV 感染者及び AIDS 患者の感染経路別内訳	7
図 2	2004(平成 16)年報告例の国籍・性別内訳	7
図 3	2004(平成 16)年報告例の推定感染地別内訳	7
図 4	HIV 感染者及び AIDS 患者の感染経路別構成(2004(平成 16)年末累計)	8
図 5	HIV 感染者及び AIDS 患者の年次推移	8
図 6	HIV 感染者及び AIDS 患者の国籍別、性別年次推移	8
図 7	HIV 感染者及び AIDS 患者の国籍別、感染経路別年次推移	9
図 8	HIV 感染者の国籍別、性別、感染地別年次推移	10
図 9	HIV 感染者の国籍別、性別、感染経路別年次推移	11
図 10	日本国籍 HIV 感染者の年齢別、性別、感染経路別の年次推移	12
図 11	日本国籍異性間 HIV 感染者の年齢別・性別内訳(累計)	12
図 12	HIV 感染者の感染経路別、国籍別、性別の報告地の分布(累計)	12
図 13	AIDS患者の国籍別、性別、感染経路別年次推移	13
図 14	AIDS患者の感染経路別、国籍別、性別の報告地の分布(累計)	14
図 15	日本国籍 AIDS 患者の年齢別、性別、感染経路別の年次推移	14
図 16	HIV 感染者及び AIDS 患者報告数のブロック別年次推移	15

資料

表 1	2004(平成 16)年に報告された HIV 感染者及び AIDS 患者の内訳	20
表 2	2004(平成 16)年末における HIV 感染者及び AIDS 患者の 国籍別、性別、感染経路別累計	21
表 3-1	HIV 感染者及び AIDS 患者の年次推移(国籍別、性別)	22
表 3-2	〃 (国籍区分別)	22
表 4	〃 (国籍別、感染経路別)	24
表 5	〃 (国籍別、性別、感染経路別)	26
表 6-1	年齢階級別の年次推移(HIV 感染者、AIDS 患者)	28
表 6-2	国籍別、性別、年齢階級別の年次推移(HIV 感染者)	30
表 6-3	〃 (AIDS 患者)	32
表 7	HIV 感染者及び AIDS 患者の年次推移(国籍別、性別、感染地別)	34
表 8-1	国籍別、性別、報告地別の年次推移(HIV 感染者)	36
表 8-2	〃 (AIDS 患者)	38
表 9-1	HIV 感染者及び AIDS 患者の年齢階級別、感染地別、報告地別の年次推移 (日本国籍男性・異性間性的接触)	40
表 9-2	〃 (日本国籍男性・同性間性的接触)	42
表 9-3	〃 (日本国籍女性・異性間性的接触)	44
表 9-4	〃 (外国国籍男性・異性間性的接触)	46
表 9-5	〃 (外国国籍男性・同性間性的接触)	48
表 9-6	〃 (外国国籍女性・異性間性的接触)	50
表 10-1	報告地別年次推移及び人口 10 万対報告数(HIV 感染者・合計)	52
表 10-2	〃 (HIV 感染者・日本国籍)	54
表 10-3	〃 (HIV 感染者・外国国籍)	56
表 10-4	〃 (AIDS 患者・合計)	58
表 10-5	〃 (AIDS 患者・日本国籍)	60
表 10-6	〃 (AIDS 患者・外国国籍)	62
表 11	AIDS 報告症例における指標疾患の分布	64
表 12-1	病変死亡者の国籍別、性別、感染経路別年次推移 (平成 11 年 3 月 31 日までの報告分)	66
表 12-2	〃 (平成 11 年 4 月 1 日からの任意報告分)	66
表 13-1	報告年・診断年対応表(HIV 感染者)	68
表 13-2	〃 (AIDS 患者)	69

(参考)

・保健所等における HIV 抗体検査件数	70
・保健所における相談件数	71
・献血件数及び HIV 抗体・核酸増幅検査陽性件数	72

2004(平成 16)年エイズ発生動向 - 概要 -

厚生労働省エイズ動向委員会

エイズ動向委員会は、3ヶ月ごとに委員会を開催し、都道府県等からの報告に基づき患者発生動向を把握し公表している。2004(平成 16)年1年間の発生動向について概要を取りまとめたので報告する。本年の新規 HIV 感染者数とエイズ患者数の報告数の合計は 1,165 件となり、HIV に感染した人の総数が初めて 1,000 件を超える報告数となった。

1. 結果

(1) HIV 感染者の報告数

1996(平成 8)年以降増加が続き、2004(平成 16)年は日本国籍、外国国籍合わせて 780 件と前年に比べて 140 件の増加で、引き続き過去最高の報告数となった(図 1)。日本国籍例は 680 件、外国国籍例は 100 件であった。特に日本国籍男性の増加が顕著で、本年の報告数は前年(525 件)を大きく上回り、過去最高の 636 件となった。日本国籍女性は 44 件と前年(32 件)より増加した(図 3)。

(2) AIDS 患者の報告数

2004(平成 16)年は日本国籍、外国国籍合わせて 385 件で、過去最高となった(図 1)。日本国籍例は 309 件で過去最高であり、外国国籍例も 76 件と昨年(65 件)より増加した。日本国籍男性例は 290 件と、前年(252 件)に比べて多く、増加が続いている。

図 1. HIV 感染者および AIDS 患者報告数の年次推移

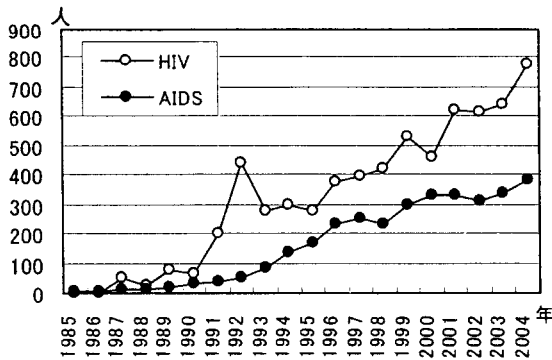


図 3. HIV 感染者報告数の国籍別、性別年次推移

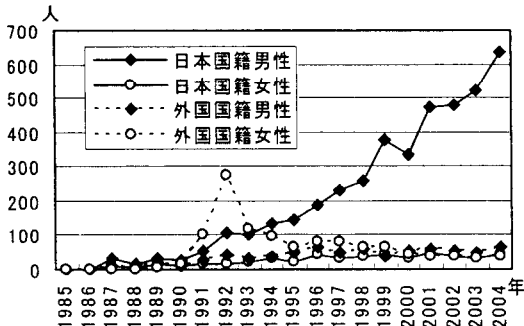


図 2. HIV 感染者の感染経路別内訳(本年報告例)

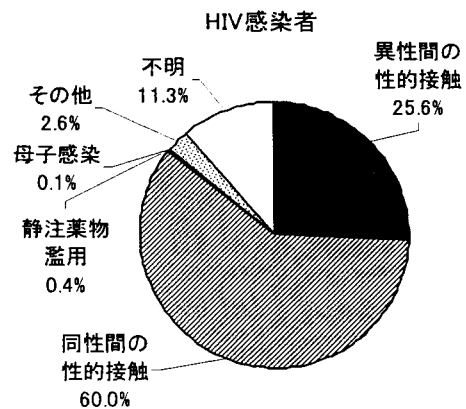
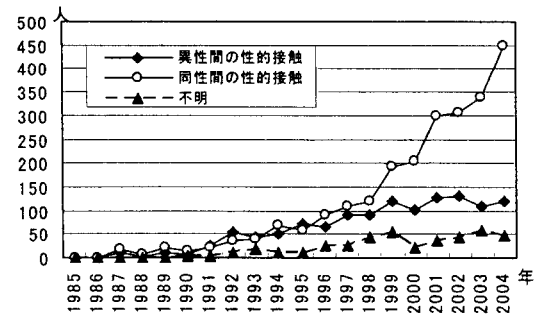


図 4. 日本国籍男性 HIV 感染者の感染経路別年次推移



(3) 感染経路

2004(平成 16)年の HIV 感染者報告例の感染経路は、異性間の性的接触が 200 件(25.6%)、同性間の性的接触が 468 件(60.0%)で、性的接触によるものがあわせて 668 件(85.6%)を占めた(図 2)。

日本国籍例では、男性同性間の性的接触が 449 件で、前年(340 件)に比べて著しい増加となった。

(図4)。また、男性異性間の性的接触も122件と前年(108件)より増加した。日本国籍女性の異性間の性的接触によるHIV感染者は近年30-40件の範囲を変動している(図5)。

本年におけるHIV感染例のうち、男性同性間の性的接触による感染の割合は15-24歳の年齢層では77.5%、25-34歳では73.9%、35-49歳では63.6%と多く、50歳以上の年齢層では31.8%で、男性異性間の性的接触とほぼ同率で推移している(図7-8)。なお、全年累計における日本国籍の異性間HIV感染者の性別構成を年齢階級別にみると、15-19歳は女性が71.4%、20-24歳は女性が52.6%を占め、男性割合の高い他の年齢層とは異なる(図6)。

本年におけるAIDS患者報告例の感染経路は、異性間の性的接触による感染は135件(35.1%)、同性間の性的接触による感染は141件(36.6%)で、性的接触による感染が合わせて276件(71.7%)を占めた。日本国籍男性例の感染経路を見ると、同性間性的接触の増加が顕著で、本年の報告は126件と異性間性的接触(99件)を上回った。

なお、静注薬物濫用や母子感染によるものはHIV感染者、AIDS患者ともにいずれも1%以下にとどまっている(図2、10)。本年は、静注薬物濫用による感染報告は5例であった。

図5. 日本国籍女性 HIV 感染者の感染経路別年次推移

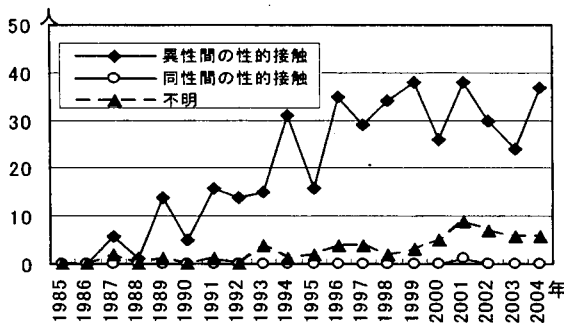


図6. 日本国籍異性間HIV感染者の年齢別、性別内訳(累計)

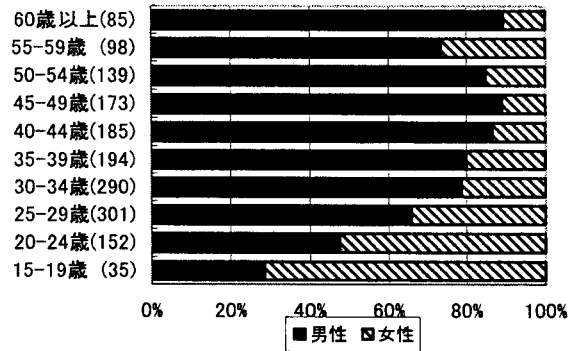


図7. 日本国籍 HIV 感染者の性別、感染経路別の年次推移 [25-34歳]

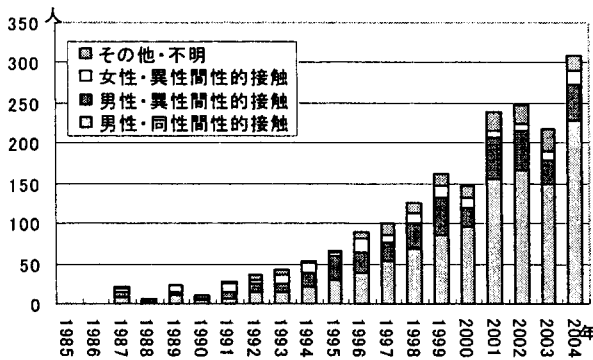


図9. AIDS 患者報告数の国籍、性別年次推移

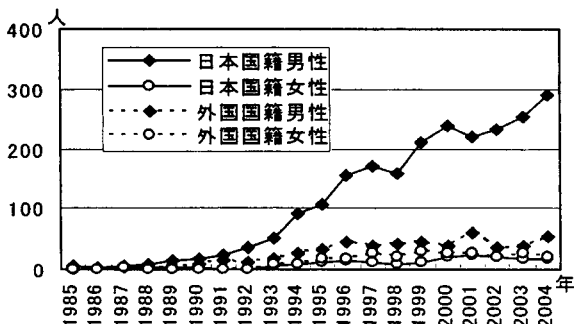


図8. 日本国籍 HIV 感染者の性別、感染経路別の年次推移 [50歳以上]

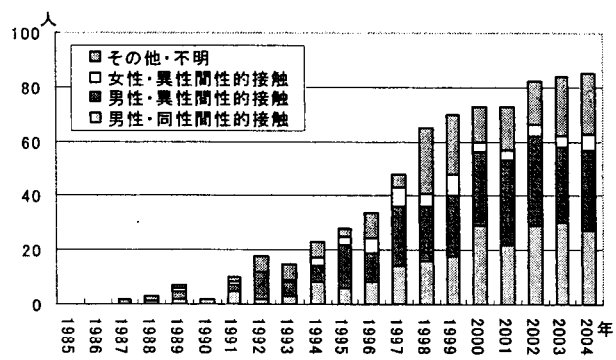
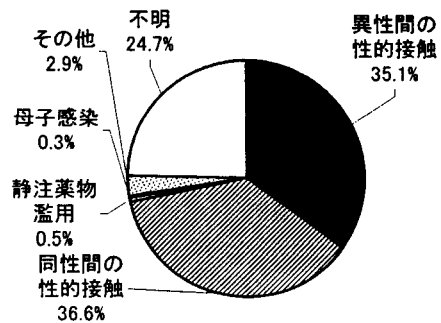


図10. AIDS 患者の感染経路別内訳(本年報告例)



(4)外国国籍報告

本年の HIV 感染者では 100 件(前年比 20.5%増)、AIDS 患者では 76 件(前年比 17.0%増)が外国国籍であった。HIV 感染者の報告年次推移には大きな変化はないが、感染経路別では男性同性間の性的接触が増加傾向にあり(図 11)、外国国籍者への注意と対応も必要である。

(5)推定される感染地域および報告地

HIV 感染者の推定感染地域は、全体の 82.4%(643 件)が国内感染で、日本国籍例では 90.0%(612 件)を占めていた。AIDS 患者の推定感染地域は全体の 69.6%(268 件)が国内感染例であった。

報告地は、東京都、関東甲信越ブロック(東京都を除く)が依然多く、本年報告例では HIV 感染者全体の 58.6%(457 件)、AIDS 患者全体の 62.3%(240 件)を占めている。

HIV 感染者は近畿、東海、九州、中国・四国をはじめとするすべてのブロックで増加が見られ、AIDS 患者でも北陸、九州を除くすべてのブロックで増加した(図 13)。

図 11. 外国国籍男性の HIV 感染者の感染経路別年次推移

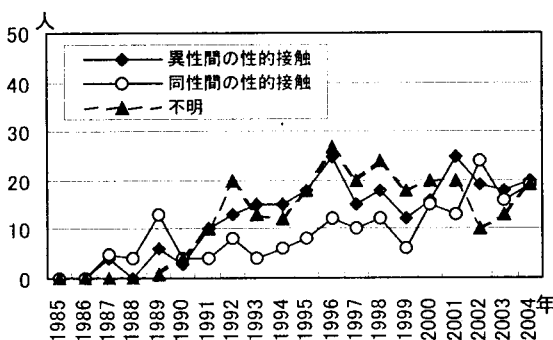


図 12. 日本国籍男性 AIDS 患者 年次推移

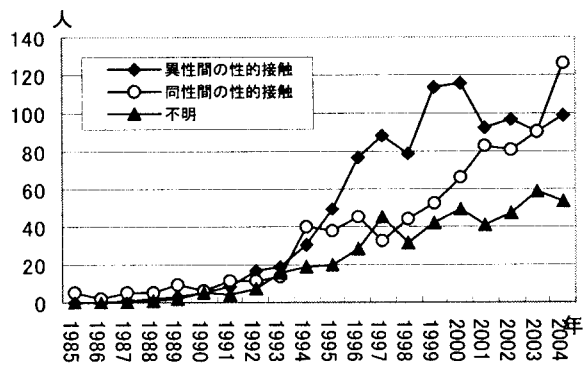
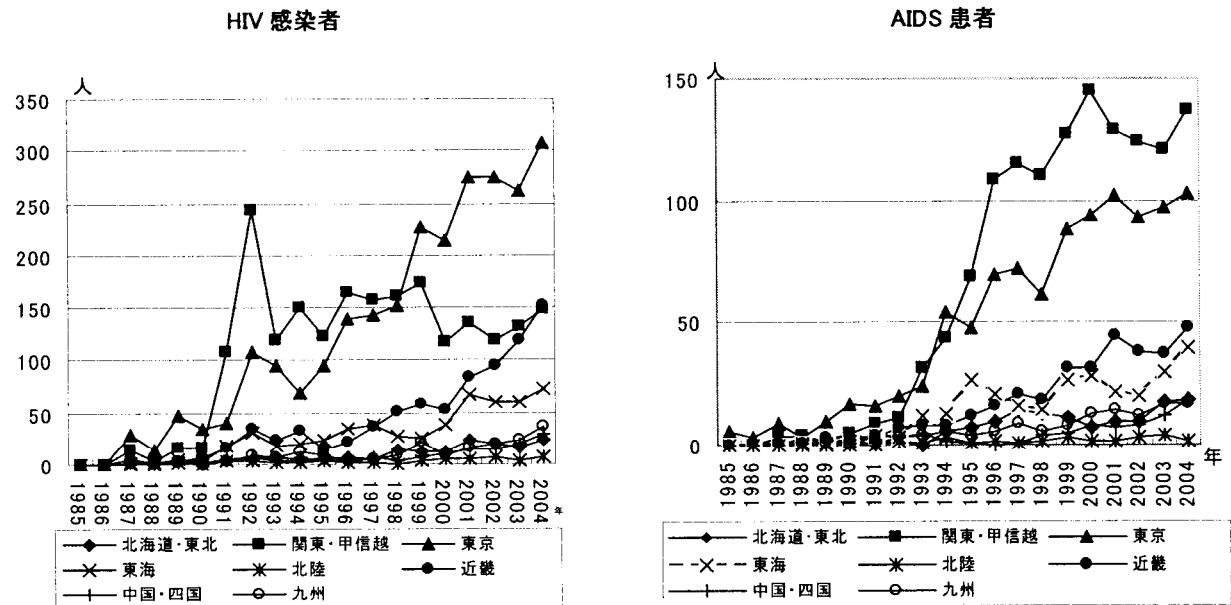


図 13. HIV 感染者および AIDS 患者報告数の報告地別年次推移



2. まとめ

わが国の HIV 感染者、AIDS 患者の発生動向は増加が続き、性的接触によるものを中心として拡大しつつあると言える。特に、男性の同性間性的接触による感染は HIV 感染者の 60.0% を占め、AIDS 患者も増加傾向にあることから、予防啓発の普及と検査による早期発見・早期治療の機会拡大が必要である。また、異性間の性的接触に対しては、男性のみならず女性、特に若年層への重点的な啓発普及が必要である。HIV 感染は、これまでの東京を中心とする関東地域に加え、近畿、東海ブロックなど地方においても報告数の増加傾向がみられ、各地域での対策の展開が望まれる。